「未来へのメッセージ」ワークショップ結果

2．テーマ2　【STEP1】＜チーム別＞
「地域での取組みを進めていく上でのメッセージ」
○　活動で大切にしていること　（1）
○　継続するコツ・ひけつ　（2）
○　こうしたら、という提案（みんなの意識を高めるために）　（3）

Aチーム

「心構え」(A)

・ひとりひとりが自分で考えて**できることをやる**！！②☆めぐ(A)
・**小さなことからコツコツ**する①☆リハク(A)
・**無理をしない**（出来る時、出来る人が参加する）②(A)
・**出来る範囲**①☆ウトッチー(A)

・**楽しんでやる**☆リハク(A)
・**楽しいことも選んで**する(A)
・**楽しむ**！☆Yan(A)

・自然とふれ合い**小さな危険を体験**する☆Yan(A)
・**自然を知る**！！☆めぐ(A)

「地域のつながり」(A)

・知人・友人、人との**出会いを大切に**②☆Yan(A)
・**つながり**(A)
・**活動を**出来るだけ**多くの人に知ってもらう**①(A)
・**誰でも参加できるよう**に呼びかける①(A)

・**地域の人を利用**する③☆Yan(A)
・**じじばば**（※）**の話を聞く**③☆Yan　※お年寄り(A)
・**子どもを中心に**おく①☆Yan(A)
・**つながり**☆めぐ(A)
・**教育**（防災教育）③(A)
・**伝える**！！（次の世代に、周りに）③☆めぐ(A)
・**子ども達と一緒**にやる①(A)
・（問題）若い人の参加が少ない（小・中学生の親）

「目標」(A)

・**目標を決める**①(A)
・**目的を明確に**する③☆ウトッチー(A)
・**達成感を持つ**②☆ウトッチー(A)

Bチーム

・自助・共助を強化するため（地域コミュニティー）手段・助言⇒メッセ(B)

「人と人」(B)

・**防災は「人」**である。「人」を育てることが大事（防災リーダー、防災教育、地域のリーダー）☆ダイ(B)
・**周りの人に声をかけて仲間を増やす**☆epi
・**月に1回ほど全体で集合**する（エコマジックの場合　のむ・遊ぶ）☆やーまん(B)
・**人と話す。出会いをつなげる**こと☆まっつん(B)
・**ひとりひとりを思いやる**☆まっつん(B)
・**一緒にいる人を理解**する。**互いのストレスフリーな付き合い**☆まっつん(B)
・**体験を伝えていく機会を増やす**☆いでっち(B)

「共助＋公助」(B)

・**学校や自治会との連携**（行事参加など）☆いでっち(B)
・**子どもといっしょに**☆モ(B)
・**行政が手を出しすぎると地域が弱く**なる☆モ(B)

「意識」(B)

・**目的意識の共有**(B)
・一人一人が**主体的に**取り組む(B)

・**強制**には**しない**。**でも、やるときはみんなで**やる☆やーまん(B)
・**継続のためには、強制しない**こと(B)
・**むりをしない**☆モ(B)
・**やりたいことをやれるだけ**☆モ(B)
・**無理せず、できる範囲で**活動する☆epi(B)

・**地域活動**は学生時代のクラブと同じでは。**強制力が必要**☆モ(B)

・**活動を発信**する☆まっつん(B)

「計画性」(B)
・**無理のない計画**☆いでっち(B)
・**計画・反省を十分に**行う（次回うまくいくように）☆やーまん(B)
・**前回よりもより良い活動に**する☆やーまん(B)
・**活動しやすい楽しい雰囲気**☆epi(B)

Cチーム

「みんなでやろう！」(C)
・**グループ内の意識統一**①☆へんりー(C)
・**自己満足に終らない**！①☆あいちゃん(C)
・**人間として**①☆にっしー(C)
・**楽しむ**①☆たまちゃん(C)
・**あいさつ、声かけ**☆おのっち(C)

「無理しない、いつもワクワク！」(C)
・**まめな、報告・連絡・相談**②☆へんりー(C)
・**無理しないで楽しく**②☆にっしー(C)
・**無理しない、まきこまれない**②☆たま(C)
・毎回、**ちがったことを一つやってみようという気持ち**でのぞむ①☆SEGA(C)
・何事にも[**参加してみよう**]**という気持ち**を持つ。絶対参加するという**義務感を少なめに**②☆SEGA(C)
・**無理のない程度に楽しみをみつける**☆おのっち②(C)

「団体間でつながろう」(C)
・自分がやっていることを**発信する**☆あいちゃん(C)
・**楽しい集まりの回数を増やす**☆にっしー(C)
・**目的の明確化**☆にっしー(C)
・**もしものときの備え**のことを、テレビで**もっとアピールするようマスコミにお願い**する☆SEGA(C)
「なんで伝わらないのか？　・一回きてくれたら・・・、・こんなに楽しいのに・・・⇒申し込みやすさ　・人柄が普段から見えるように」

Dチーム

「大切なこと！！　方向性」(D)
・人間至上主義でない**広い視点・価値観を次世代へ**☆まめっち(D)
・**変わらぬ願い、想い**❶☆とみく(E)
・**一人では**そう**出来ない**。３馬力から５馬力で一つの事が出来ます①☆みぞぐ(D)
・自助・自己判断ということばが出た。⇒**まずは“自分”から**！！③☆じん(D)
・**普段のゴミ拾い**。捨てるところを先読みして「ひろって、ポイ！」☆じん(D)
・One for all、All for one.**一人はみんなのために、みんなは一人のために**☆タケロー(D)

「継続するコツ！！　知恵・方法 method」(D)
・**地域の人・関わる人とのご縁を大事に**したい☆じん(D)
・**肩ひじ張らず、マイペースで好きなことを**する（井戸、かめ、かも、カヌー）②☆みぞぐ(D)
・**無理のないプラン**で**休み休みゆっくり**進める☆まめっち(D)
・**定期的に情報の共有**☆きりん(D)
・**ポジティブ**に、**気張らずコミュニケーショ**

ン☆じん(D)
・**つながり**を持つ☆きりん(D)
・**いろんなバージョンの避難訓練**をする☆まめっち(D)

「提案！！」(C)
・浦上川を**全国に知ってもらいたい**（アユも500 匹以上いる。２．家野町はキリスト教の力のまちです。原爆遺跡が多くあります。ホタルも飛んでいます）☆みぞぐ(D)
ホタル⇒認知度 up
・（**夢・目標を？**）**行事の一つに組みこむ**☆まめっち(D)

「すべてに共通すること」
・**夢を持つ**☆きりん(D)
・**常に弱い立場の目線で**☆タケロー(D)

欠席者意見
（１）活動で大切にしていること
・**変わらぬ願い、想い①**☆とみく(E)
・**安心感を与える雰囲気（人間性）①**☆とみく(E)
（２）継続する秘訣
・**みんなの力を信じ、思いを共有**する②☆とみく(E)
・**楽しい会であること②**☆とみく(E)
（３）こうしたらという提案　等
・**地域の人達と常に手をつなぎうる体制③**☆とみく(E)

（１）活動で大切にしていること
・**それぞれ**の個人**が自分の持っている能力で、仕え合うこと①**☆ターボー(E)
（２）継続する秘訣
・**我慢。焦らない②**☆ターボー(E)
（３）こうしたらという提案　等(E)
・**異分野との交流③**☆ターボー(E)

＜マーチン＞　6/18
（１）活動で大切にしていること
・**最後は人。人と人とのつながり。信頼関係**を築くこと。誰もが得意や得手を持っている（不得手ももちろんあるが足を引っ張らない）①☆マーチン(E)
・**人の話や意見をよく聞くこと**。多様な経験や価値感、目標を理解し、自分自身も変われること（多様だからこそ世界は継続できる。単一、均一だと崩壊する）①☆マーチン(E)
（２）継続する秘訣
・**夢を持つ**こと。**将来のビジョンを仲間と共有する**こと②☆マーチン(E)
・**急がない。無理しない。押し付けない②**☆マーチン(E)

（３）こうしたらという提案　等
・目標やビジョンは、目先ではなく将来を見つめること。地域だけではなく世界を見つめること③☆マーチン(E)
・すべての事を**選択、判断する時は**、常にどちらが（環境的に）**持続可能かを考えること③**☆マーチン(E)

（１）活動で大切にしていること、（２）継続する秘訣
・地域で**コミュニケーションが図れるようレクレーションなどを絶やさない①**☆ヤマさん(E)

（１）活動で大切にしていること
・**あいさつ**をすること①☆じゅりあん(E)
・**他の参加者に自ら話しかける**こと①☆じゅりあん(E)

（２）継続する秘訣
・**活動に**厳しい**縛りを設けない**こと②☆じゅりあん(E)

＜**とみく会長メモ**＞

おかげさまで、６月１日、30 周年記念ホタル放遊慰霊会を終えることができました。

30 年間慰霊のために、という悲しい体験からのスタートでしたが、多くの人に支えられ、鎮魂の思いで毎年ホタル飼育を続け、慰霊会を開催できたこと、関わって頂いた人々に感謝しています。

学校という厳しい環境の中で 30 年間続けられたこと

１．歴代の校長先生が、ホタルの会へ好意的理解を示して下さった。
２．伊良林小学校 PTA が全面的にバックアップして下さった。
３．担当の先生、ホタル委員会の児童が、生き物に熱心に興味を持ってくれた・・・などなど

生き物ホタルの一生を考え合わせ、常に人の子の幸せな生活環境を語り知らせ、自然の贈り物ホタルの灯を保ち、守り続ける環境保全、水辺保全を教わった。小さな生き物を育てることで、生命の尊さを学んだ。

これから、

長崎大水害から 30 年、小学生の児童の両親ですら、大水害を体験していない時代となり、慰霊、災害をどのように伝えるか。自然の豊かさ、いやし、安らぎの隣にある災害は、いつの時でも起こり得ることを考え合わせねばならない。

校区における子どもを守るネットワークを中心に、地域の人達と常に手をつなぎ、思いを共有していくことが大事である。

今、こんなこと考えています。

ホタルの会　とみく．より